



ADRC Highlights Vol.130

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

16 December 2005

▶ ISDR 第12回タスクフォース会議開催 □ 新たなISDRシステムとその活動について議論

2005年11月22-23日、ジュネーブの国連本部において、第12回防災に関するタスクフォース会議（事務局：国連国際防災戦略（UN/ISDR）事務局）が開催され、アジア防災センターはそのメンバーとして会議に参加しました。

今回の会議の目的は、今年1月に兵庫県神戸市で開催された国連防災世界会議の成果文書である「兵庫行動枠組」（HFA）を推進していくための新たなISDRシステムの構築や今後の活動について協議し、メンバー間の合意を得ることでした。

会議ではまず、ISDR事務局、タスクフォースメンバー、テーマ別プラットフォームなど会議参加者から、最近のHFAの実施を支援する活動について報告がありました。



その後、国連事務総長レポート（A/60/180）で提案されている兵庫行動枠組の実施に向けた新たなISDRシステム（詳細は近々掲載予定）の実現に当たっての諸課題について3つのグループ（(a)HFAの実施支援のための作業計画、(b)HFAの実施状況に関するレポートシステム、(c)HFA実施のためのテーマ）に分かれて議論が行われました。この他、最近の災害からの教訓に関する専門家パネルや、HFAやISDR活動に関するPRキャンペーンに関するセッションもありました。この会議の詳細は、<http://www.unisdr.org/eng/task%20force/tf-meeting-12th-eng.htm>をご参照ください。

□ IRP(国際防災復興協力機構)に関する会合も開催

今回の第12回防災に関するタスクフォース会議に併せて、IRP(International Recovery Platform・国際防災復興協力機構)に関する会合が開催され、ADRCを始めとする関係機関やドナー国等から約40名が参加しました。

本会議では、(1)神戸、トリノ、ジュネーブの各IRPハブにおける事業の推進状況の報告、(2)パキスタン地震に関する国連早期復興支援委員会へのIRPの貢献活動の報告、(3)IRPの今後の活動に関する議論が行われました。

上記(1)に関しては、トリノから能力向上のための活動、ジュネーブから復興時のニーズ把握手法の開発について報告があった後、神戸での活動としてADRCの村田参事より、復興優良事例のデータベース構築と、それを活用した復興の総合的指針となる小冊子の編集に着手したことを報告しました。なお編集者は、英国クランフィールド大学のイアン・デービス教授を起用する予定です。同教授は今会合にも出席し、復興に際しては、災害の全ての局面を視野に入れながら、各分野の関係者と連携していくことが重要であることと、そのために必要な切り口・視点についての講演を行いました。

IRPの今後の活動に関しては、会合に参加した各機関から、それぞれが所有する知見を提供することを通じて、IRPの各ハブで推進される優先活動を積極的に支援していきたいとの意思表示がされました。この件については、IRPウェブサイトをご覧ください (<http://www.RecoveryPlatform.org/>)。

▶ 第38回ESCAP/WMO台風委員会がベトナム・ハノイで開催、ADRCが参加

2005年11月14-19日、第38回ESCAP/WMO台風委員会が、ベトナムのハノイで開催されました。期間中は、台風委員会の14のメンバー国のうち12カ国67人の他、アジア防災センター(ADRC)、UN/ISDR、UNESCO/IOC、WMO/CAS、UN/ESCAPなど国連・国際機関から17人の参加がありました。今回の委員会は、実施中のプログラムの進捗状況を検証し、2005年以降に実施予定の活動や必要な支援を決定することを目的に開かれました。

本委員会において決定した各部門の今後の優先活動は次のとおりです。(1)メンバー国における早期警報システムについての調査実施(防災部門)、(2)台風関連災害に関する社会・経済データベースの構築(防災部門)、(3)全球気象通信システム(GTS)等についての調査(気象部門)、(4)台風関連の災害による社会経済的影響の調査手法の規格統一(水門部門)、(5)台風に関する包括的な研究プログラム作成に関する戦略策定。また、現在フィリピン政府内にある同委員会事務局を、1年の移行期間の後、中国マカオへ移籍することが決まりました。

また、同委員会の防災部門では、災害に強いコミュニティー形成のツールとしての防災タウンウォッチング、災害に関する情報の共有を促すGLIDEシステムの重要性が認識されました。ADRCからは、マリア・ゴア客員研究員が出席し、2004年から今年にかけて実施したプロジェクトや、2006年の活動計画、総合的な防災政策(TDRM)について、発表しました。次回の会合はフィリピンで行われます。

▶ 第2回国際防災復興協力シンポジウムの開催

このたび、IRP(国際防災復興協力機構)は、内閣府および兵庫県、国連国際防災戦略(ISDR)事務局、国連開発計画(UNDP)、国連人道問題調整事務所(UN/OCHA)神戸、当センター(ADRC)との共催により、国際防災復興協力シンポジウム「大災害からの復興に際して学び・考えること(仮題)」を2006年1月19日(木)14時~17時15分、神戸の国際会議場にて開催します。昨今の大規模災害の被災地から専門家を招聘し、復興過程から得られた教訓や問題点などについて議論を進めていきます。参加費は無料、どなたでも参加できます。参加希望者は、<http://www.recoveryplatform.org>までアクセスするか、氏名・職業・住所・電話/FAX番号を2006年1月12日までにirp@recoveryplatform.orgあてメールでお申し込みください。

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by: Asian Disaster Reduction Center (ADRC)

Hitomiraikan 5F, 1-5-2 Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe
651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone:+81-78-262-5540